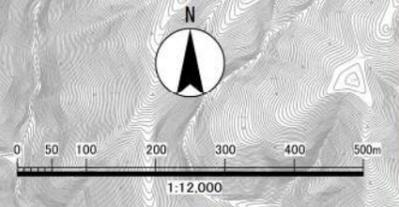


いなべ市ため池ハザードマップ 坂東池

この「ため池ハザードマップ」を目のつく場所において、日頃から防災に関心を持ちましょう。
避難場所への経路を確認し、いざという時には落ち着いて行動しましょう。
ため池の異変等を発見したらすぐに連絡をお願いします。

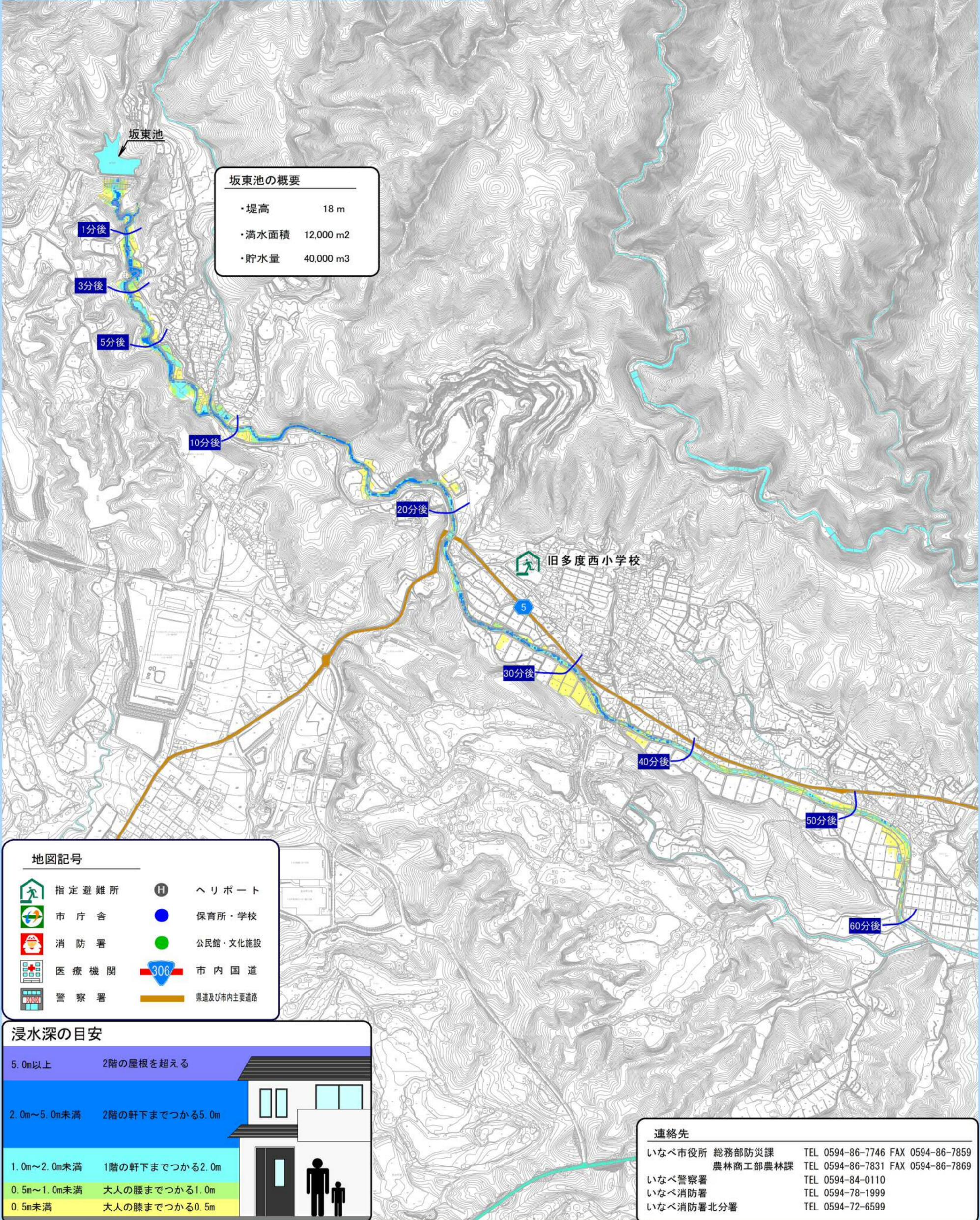
地図の見方

この地図は、ため池が決壊した場合に予測される浸水区域と到達時間を表示しています。
表示している水深は、時間の経過により変化する水深の中で最も深い水深を表しています。
浸水区域や到達時間は、ため池の貯水量や雨量、地震の規模等によって異なります。



坂東池の概要

- ・堤高 18 m
- ・満水面積 12,000 m²
- ・貯水量 40,000 m³

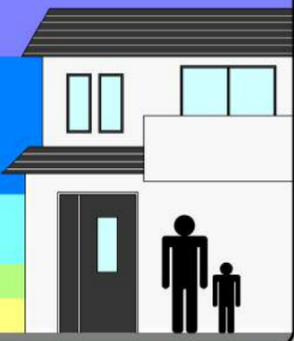


地図記号

- | | | | |
|--|-------|--|------------|
| | 指定避難所 | | ヘリポート |
| | 市庁舎 | | 保育所・学校 |
| | 消防署 | | 公民館・文化施設 |
| | 医療機関 | | 市内国道 |
| | 警察署 | | 県道及び市内主要道路 |

浸水深の目安

- | | |
|-------------|----------------|
| 5.0m以上 | 2階の屋根を超える |
| 2.0m～5.0m未満 | 2階の軒下までつかる5.0m |
| 1.0m～2.0m未満 | 1階の軒下までつかる2.0m |
| 0.5m～1.0m未満 | 大人の腰までつかる1.0m |
| 0.5m未満 | 大人の膝までつかる0.5m |



連絡先

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| いなべ市役所 総務部防災課 | TEL 0594-86-7746 FAX 0594-86-7859 |
| いなべ市役所 農林商工部農林課 | TEL 0594-86-7831 FAX 0594-86-7869 |
| いなべ警察署 | TEL 0594-84-0110 |
| いなべ消防署 | TEL 0594-78-1999 |
| いなべ消防署北分署 | TEL 0594-72-6599 |

いなべ市 ため池ハザードマップ

いなべ市ため池ハザードマップ
 発行 いなべ市
 発行年月 令和2年3月
 お問い合わせ 桑名市農林水産課
 TEL 0594-24-1205
 いなべ市農林課
 TEL 0594-86-7831

はじめに

ため池は全国におよそ21万箇所あり、古くから農業用水の貯水池として利用されてきましたが、その多くは築造から100年以上が経過し、老朽化が進行しています。さらに、近年多発している局地的な大雨や地震などの自然災害が重なることにより、ため池が決壊し、人命や財産などに大きな被害をもたらす危険性が高まります。

このため、ため池が決壊した場合に想定される浸水被害の範囲や避難場所などの情報を分かりやすく地域住民の方々に提供することを目的として、「ため池ハザードマップ」を作成しました。

この「ため池ハザードマップ」により、浸水区域や避難場所を事前に把握し、安全な避難活動にご活用いただくとともに、「ため池ハザードマップ」を通じて日頃の防災意識の向上や地域の防災情報の共有などにお役立て下さい。



平成23年3月11日、東日本大震災により決壊した「ため池」

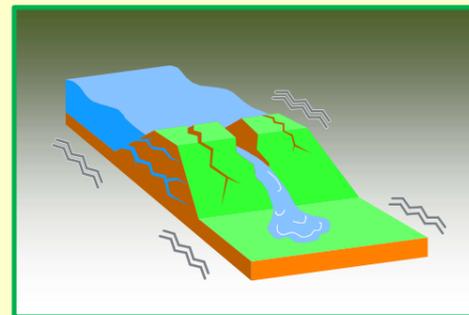
こんな場合にため池 決壊の危険があります！

ため池は日頃から安全管理を行っていますが、大きな地震や想定を上回る大雨によって、堤防の強度が低下し、決壊の危険が高くなりますのでご注意ください！

地震発生直後

大きな地震が発生すると、堤防で亀裂や地すべりが発生したり、地盤の液状化現象が起きるため、堤防決壊の危険性が高くなります。

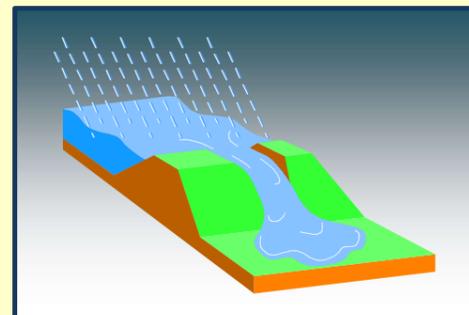
また、比較的小さな地震でも堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下するので注意が必要です。



大雨が長く続いた時

ため池の洪水吐（許容量を超えた貯水を放水する施設）の能力には限界があります。

近年多発するゲリラ豪雨などの局地的な大雨が長く続くと、ため池の水位が上昇し、堤防を乗り越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊につながる危険性があります。



ため池が 決壊 する前に 避難 しましょう！

緊急時にため池の決壊を知らせることは出来ません。大切なことは、ため池が決壊する前に避難することです。ため池ハザードマップで浸水被害の範囲や浸水深等を確認し、いざという時のために準備することが必要です。

① 防災準備

- ハザードマップを見て、浸水被害の範囲や浸水深、到達時間などを把握する。
- 最寄りの避難場所を確認する。
- いつでも避難できるように非常持ち出し品を常備する。



② 情報収集

- テレビやラジオで気象情報などを確認する。
 - 緊急地震速報
 - 台風情報
- 市からの避難情報に注意する。
 - 避難準備・高齢者等避難開始
 - 避難勧告
 - 避難指示（緊急）



③ 避難

■ 浸水深が 0.5 m 未満 の区域

建物の床下まで浸水しますが、むやみな避難はかえって危険が伴います。安全が確認できるまで自宅で待機しましょう。

■ 浸水深が 0.5 m～2 m の区域

建物の1階部分が浸水するので、丈夫な建物の2階以上に避難しましょう。安全な避難経路が確保されていれば浸水区域の外に避難しましょう。

■ 浸水深が 2 m 以上の区域

建物の2階部分まで浸水します。集中豪雨や長雨、もしくは大きな地震が発生したら、ため池が決壊する前に直ちに安全な場所へ避難しましょう。



お年寄りや体の不自由な方たちの避難にご協力を！



最小限の荷物をもって徒歩で避難する。

防災のための 適切な日常管理！

〈ため池管理者のみなさんへ〉

◆ため池の適正な管理。

ため池堤体においては、適正な草刈作業を行うとともに、堤体からの漏水、堤体の陥没、クラックの発生がないかを点検し、異常を発見した時は、市へ報告してください。

◆洪水吐の土砂・ゴミ等を取り除く。嵩上げのための土嚢を置かない。

洪水吐に堆積した土砂やゴミ等は、流水断面を阻害し、適切な機能を発揮することができません。また、ため池の貯水を増やすために、洪水吐に土のうを積み重ねる様子がよく見られますが、これも危険ですので止めてください。

◆地震後や大雨の前にため池の水位を下げる。

地震により発生した堤防の亀裂に浸水し、2～3日後に堤防が決壊する危険性があることが、過去の震災調査で判明しています。このため地震発生後、安全を確保した上でため池の水位を出来るだけ下げてください。



土のうによる洪水吐の嵩上げ